

学生向け講座「スマホサービスクリエイター養成ブートキャンプ」が日経産業新聞で紹介されました。

2011/11/07

11月7日の日経産業新聞で小学生向けブックレビューサイト「Bookly」を紹介していただきました。

アナログトゥエルヴ

小学生向け読書SNS

ソフト開発会社のアナログトゥエルヴ（東京・千代田、赤松隆社長）は、小学生などの児童が「読書日記」をインターネット上に記録し、友達らと情報共有できる交流サイト（SNS）を始める。自分が読んだ本の感想を書き込めるほか、友達も読んだ本をもとに「おすすめ」情報を得られる。ソーシャルメディア利用者の増加に伴い、SNSを活用して読書体験を共有する「ソーシャルリーディング」が広がりつつあるが、子どもを対象としたサービスは珍しい。



読書日記SNSの「ブックリー」は小学生を主な利用者として想定している。

新サービス「Bookリー（ブックリー）」を7日から始める。小学生を主な利用者として想定している。ユーザーは登録を済ませれば、無料でサービスを使える。ブックリーはアマゾンジャパン（東京・渋谷）の書籍通販サイトと連携。アマゾンが扱う「児童書」の分野についてはすべてを網羅するとい

アマゾンと連携 1万人獲得狙う

をブックリー上の「友人」として登録しておく、友人が感想文を投稿するたびに閲覧できる。また、友人が最近読んだ本から「おすすめ」の本を推奨し、次に読むべき本を推薦する機能も備えた。また、感想文を書けば書くほどポイントがたまると、ゲーム感覚も探り入れた。感想を記入す

ると1回ごとに20秒、感想を読んだ友人が「ありがとう」ボタンを押すと30秒を獲得できる。ユーザーはネット上の分身「アバター」を登録できる。アバターはポイントによってアイテムを獲得でき、着せ替え人形などの要領で自分の好みの姿に自在に変えられる。さらに、来着をメドに

ポイントを仮想通貨として、ユーザー同士が読んだ児童書を交換できるようにする。児童の成長に伴って読む対象の本も変わってくることに目を付け、ブックリーを市場としてリサイクルを促す考えだ。アナログトゥエルヴは複数の小学校と提携を交渉中という。まず1年間

で1万人の会員を獲得することを目指す。収益は出版社から得るタイアップ広告などで生み出す。ソーシャルリーディングのサービスとしては、ペーパーボーイ&コー（東京・渋谷）の「ブック」などが先行。ただ、利用者を児童に特化したSNSはこれまでなかった。

児童書」の分野についてはすべてを網羅するとい